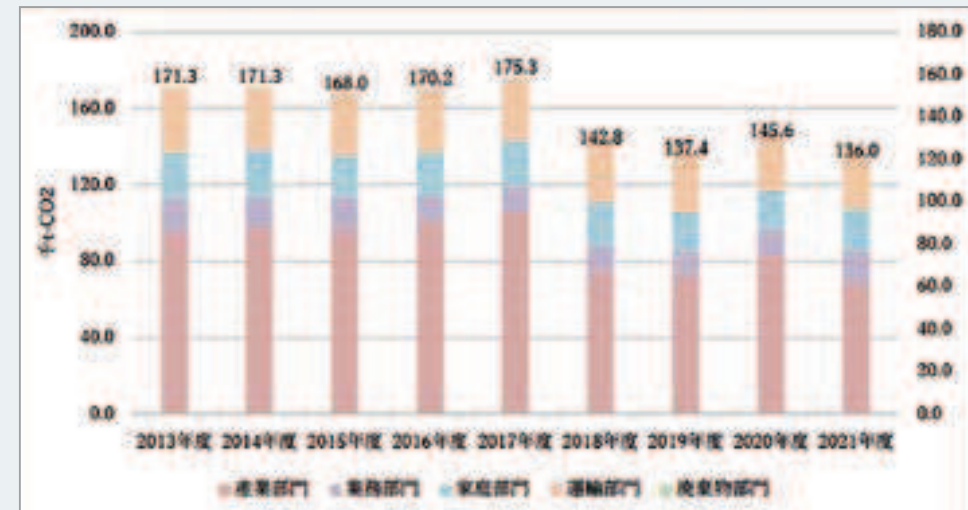




温室効果ガスの排出状況

現状

最新(2021年度)の温室効果ガス排出量は、136.0千t-CO₂です。(2013年度比26%減)
部門別で見ると、排出量の多い順に、産業部門(50.4%)、運輸部門(20.7%)、家庭部門(16.3%)、業務部門(12.4%)、廃棄部門(0.2%)で、**全国、長野県に比べ産業部門の排出量が多くなっています。**



温室効果ガス排出量の推移(2013年度～2021年度)

要因分析

- 産業部門：大口排出事業者の割合が大きく、排出量によって変動します。一部大口排出事業者の企業努力によって2018年度以降温室効果ガス排出量が大幅に削減されています。
- 業務部門：2020年度から2021年度は、新型コロナウイルス蔓延による医療・福祉分野での電気使用量増加や、寒波到来による暖房の使用量増加が原因となり、排出量が増加したと見られます。
- 家庭部門：2018年度までは世帯数の減少に伴い、排出量も減少しています。2019年度以降は省エネ家電の導入や住宅の断熱改修工事を実施する家庭が増加したことが推測できます。
- 運輸部門：自動車保有台数の増減や燃費改善等により変動すると考えられます。近年では保有台数の減少に伴い減少傾向となっています。
- 廃棄部門：富士見町の可燃ごみ排出量に伴って、温室効果ガス排出量も増減しています。

次回(広報8月号)は、「再生可能エネルギー導入ポテンシャルの推計」について紹介します。